

ドキュメント

(英: document)

参照されることを前提として記録される情報。

記録。文書。文献。

ドキュメントとは、書類、資料、記録(物)、記録する、文書化する、立証する、などの意味を持つ英単語。

ITの分野では文字や図表、写真などを組み合わせて作成された文書や、文書としての形式や体裁を持つデータやファイルなどのことをドキュメントという。

*

ご来場ありがとうございます。

今、もし私が在廊できていないようでしたら せっかくご来場くださったのに申し訳ないです。

この文を書いている現在は2017年11月初旬なので、まだどうなっているかわかりませんが

今年の個展が決まって4ヶ月後、私の妊娠が発覚しました。

なんと出産予定日は個展の会期中ど真ん中です。

もし出産が早まっていたり、出産を終えていたりすると会期中在廊することができないことや、

なかなか思うように動けず在廊がままならないこともあり

折角ご来場くださった皆さんとお話しできないかもしれないので、今回の展示について少し文章を書きました。

よかったら少しお付き合いください。

*

私は、毎回個展に向けて何か一つのテーマを設けています。(個展のタイトルにもなります)

今回もこの個展に向けてのテーマを一つ設けようと思いました。もわもわとした雲のようなものを、だんだん形にしていく作業です。

毎回ヒントになる言葉をメモしたり、要素を集めたり思考を深めたり、内部へと潜っていく作業をするのですが、2017年の8月頃、そのテーマへの意欲や興味がブツンと途絶えてしまいました。

通常ならばある程度時間がかかっても、必ずどこかにスイッチがあります。スイッチが入れば加速して、テーマをぐんと掘り下げていけるのですが、いつものように食い下がって深掘りしたくなる「熱」がなかなか出現しません。

わたしは焦ってきました。この気持ちのベースが体の底に叩き込まれないと、まるで絵が描けないからです。

初めての妊娠生活に翻弄され、体調の乱高下も相まって、一ミリも筆が進まないまま日々が過ぎて行きました。

私は描きたい衝動で湧き上がるように描けるタイプではありません。これまでの個展も、毎回その時のその時の考え、感覚を、キーワードや文章に落とし込んだり、ずっとその考えとともに生活しながら時間をかけて、1滴を毛細血管の奥から絞り出すように描いてきました。

今回も同じことをしようとしているだけなのに、妊娠生活の慌ただしい todo や、新しい命を迎える準備や、思うようにならない自分の体と毎日向き合っていくうちに、「テーマを掘り下げる」という自分を能動的に絵に乗せていく行為がなんだか白々しく思えてきてしまったのです。

しまいには、今まで自分が描いて来たテーマや作品に対しても疑問が湧いてきてしまいました。「なんだったんだろう？」と思いつつながらある時、ふと自分の行動が、どうも「生きること」「無事にお腹の中の命を育むこと」を第一にして動いているようにだと気がついたのです。

妊娠中は一服盛られたように眠くなり、今までにない程たくさん眠りました。本能が拒絶するものに従ったり、ホルモンのバランスがぐるぐる変わるのに任せて白が黒になるような感情の変化を経験しました。

私は、Aだと言われるとBだと言いたくなる天邪鬼で、押し付けられるのが嫌いです。一つのものととられるのも嫌いです。妊娠したら、周りの人から「きっと絵が変わるね」と言われることがあまり嬉しくなく、制作テーマの閃かない原因は、「赤ちゃんがやって来たことによる母性が原因で…」とかいうものではない！と思いたかったのですが、母性も何も人間の本能はプライオリティを自然に位置づけるものなのだと実感してしまったのです。

そうして日々を生きているうちに、「制作」とか「仕事」の上で、私が囚われていた二元的なこと — 「絵とは」「アートとは」「イラストとは」「あなたのなりたいものは？」「出産が第一とはいえ個展をすると決めた以上は一つでも多くの新作を描かなければ」— そういった、私にまわりついていた外的要因、意識の枷が取れたのだと思います。私の思う外的要因とは、例えば個展をする。テーマを設ける。見せる。絵を売る。考える。新しいものを描く。より良いものを描く。Have to do… それらに対して、「順番が違う」ということに気がついたのです。「描きたいものを描く」以外の様々な要素のプライオリティを優先しようとして、一番大事な部分のシャッターがおりてしまったのでした。

なんてことはない、難しいことも一切なくて、私が描きたいのはなぜかしら

ずっと自分のそばにあった答えは明快で、「私自身の映し鏡と、向上するもの。美しいもの。湧き上がるもの、好きなものを描きたくて描いてる」ただこれだけでした。

私は、自分を「描きたい衝動で描くタイプではない」と思い込んでいたのに、その源にあるのは衝動と、美を表現したい気持ちだけでした。

ずっとそばにあったのに、このポイントに視線を向けてこれなかったのは、わたしが天邪鬼だからこそ(笑) ずっとそういう外的要因に翻弄されていたからです。

今回神様に与えられた妊娠という期間で、わたしは上澄みを取り去ったもう一歩中の自分の意識に気づく事ができました。

大人だから、社会人だから、そうやって考えて、社会的な要素がないと描いちゃダメ。と、自分に呪いをかけていたように思います。

*

常日頃、わたしの中にある

「その時々自分の血潮の中に閃いた美しさや感情の煌めきを最高まで持っていきたい」

そういう女の子の表情、感情、肉体、装飾、空気、湿度、匂い、熱、美しいところ全部。

「しかしそれは、強くあさはかで、一瞬で掻き消えてしまう」

「二度と同じにはならない」

その一瞬を込めた絵を描きたいという思い。

言葉にならないかと思ってたら、

最終的に毎回たどり着くのはここです。

テーマを考えなくちゃ、から始まって、ぐるぐる遠回りして、やっぱりここです。

一筆一筆にそのきらめきが込められていたらと、願うように念じるように、描いています。

このアートコンプレックスセンターで初めて個展を開いた2009年のわたしにあったきらめきと同じものは、今のわたしには再現できません。

毎回毎回唸りながら描いていたものの根っこにずっとあったシンプルな答え。

過去の作品たちも、みんなこの答えに基づいて同じ芯を持って描いてきた、わたしの「ドキュメント」＝「記録」です。

今年の大半をかけてテーマが浮かばず悩み苦しんだことも、間違っていないでした。ここまでの歩み全てに意味がありました。

こうして不器用ながら、これからもまだまだ、一步ずつ積み重ねて、表現を深め、広げていきたいと思っています。

今回、妊娠・出産というタイミングで個展を開催できたのも、アートコンプレックスセンターの式田館長、スタッフの皆様のご厚情があってこそです。そして、いつも応援し見に来てくださるファンの方やお客様のおかげです。ありがとうございます。支え見守ってくれている家族や友人たちにも感謝しています。

どうぞこれからも、
あたたかく見守ってくださいますと幸いです。

*

sioux